

## 都立高等学校等における個別指導計画・個別の教育支援計画の推進事業報告

### <委員>

中田 正敏	明星大学 准教授	専門委員
松村 裕美	両国発達支援センターあんと 代表	専門委員
赤石 定治	都立科学技術高等学校 統括校長	
大本 静代	都立八王子拓真高等学校 統括校長	
高橋 寛	都立科学技術高等学校 主任教諭	
末石 忠史	都立八王子拓真高等学校 主幹教諭	

# 高等学校の個別の教育支援計画

## 高等学校における現状と課題

高等学校学習指導要領（平成 21 年 3 月）の「総則」の中で、新たに次の内容が示されました。

障害のある生徒などについては、各教科・科目等の選択、その内容の取扱いなどについて必要な配慮を行うとともに、特別支援学校等の助言又は援助を活用しつつ、例えば指導についての計画又は家庭や医療、福祉、労働等の業務を行う関係機関と連携した支援のための計画を個別に作成することなどにより、個々の生徒の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。

これにより、高等学校においても、家庭や医療、福祉、労働等の業務を行う関係機関と連携した**個別の教育支援計画**と指導についての計画である**個別指導計画**を作成するなどしながら、個々の生徒の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うことが求められるようになりました。

そこで、都教育委員会では、都立高等学校における個別の教育支援計画、個別指導計画の作成と活用を推進していくために、以下の課題を設定して実践的研究を進めました。

- 1 実際の指導に即した個別の教育支援計画・個別指導計画の書式の開発
- 2 個別の教育支援計画・個別指導計画の作成と活用の方法の整理
- 3 中学校や進路先と連携し、一貫した支援をつなげていく方法の整理

## 課題の解決に向けて

上記の課題を解決するために、高等学校に適した個別の教育支援計画等の作成・活用の在り方について次のとおり研究・開発を行いました。

- 1 実際の指導に即した個別の教育支援計画、個別指導計画の書式の開発  
→ 高等学校の現場で記入しやすい、新たな書式である「**学校生活支援シート**」及び「**学校生活支援カード**」を開発しました。
- 2 個別の教育支援計画、個別指導計画の作成と活用の方法の整理  
→ 開発した「学校生活支援シート」及び「学校生活支援カード」を活用して、**3年間の支援の流れを表すモデル**を作成しました。
- 3 中学校や進路先と連携し、一貫した支援をつなげていく方法の整理  
→ **中学校や進路先との引継ぎの方法を整理**しました。

## 学校生活支援シートとは

### <学校生活支援シートとは>

- ・ 高等学校向けに研究開発した「個別の教育支援計画」です。
- ・ 本人や保護者の願いを踏まえ、1～3年間の中・長期的な展望に立って支援目標を設定します。
- ・ 「学校生活支援シート」は、学級担任が、特別支援教育コーディネーターの協力を得て作成します。
- ・ 家庭と学校が同じ目標の下に支援を進めていくことができます。
- ・ 保護者の了解の下、外部の支援機関や進路先との連携を図る際の情報共有ツールとして活用できます。

### <学校生活支援シートを作成することにより>

- ・ 高等学校卒業後の生活を見通した指導を、高等学校段階から充実させることができます。
- ・ 関係機関との連携を築くことで、卒業後も本人を支えるネットワークを構築することができます。

## 学校生活支援カードとは

### <学校生活支援カードとは>

- ・ 高等学校向けに研究開発した「個別指導計画」です。
- ・ 1年以内の短い期間の中で目標を設定します。
- ・ 学級担任が特別支援教育コーディネーターの協力を得て作成します。特に、学習指導、生活指導、進路指導の項目については、学年の教員や生活指導部、進路指導部と連携を図りながら目標を定めます。
- ・ 担任や特別支援教育コーディネーター以外に、教科担当者や生活指導部、進路指導部などが、校内で情報を共有しながら、それぞれの役割に応じて支援を進めることができます。
- ・ 生徒に合わせた具体的な支援方法を校内で共有するためのツールとして活用できます。

### <学校生活支援カードを作成することにより>

- ・ それぞれの教員が、本人の学びの特性（どのようにしたら分かりやすいのか）に合わせて、効果的な学習支援の方法を考えることができます。
- ・ 本人の苦手な事柄を把握できることにより、失敗を避けさせることができ、生徒の自己評価を低下させることを防ぐことができます。

# 「学校生活支援シート」(高等学校)

## 学校生活支援シート (個別の教育支援計画)

(表)

生徒	ふりがな		性別
	氏名		
担任	氏名		
在籍校		学校	年 組

### 将来についての希望や願い

生徒

保護者

本人・保護者の学習や生活、進路に関する希望を記入します。個別面談や進路相談で聞き取った内容を学級担任が記入したり、本人・保護者自身に記入してもらったりします。

### 現在の生徒の様子

学校や家庭での生徒の様子や、将来についての希望の実現に向けた支援の方向性等について学級担任が記入します。

### 支援の目標

本人・保護者と話し合い、1～3年後を想定した支援の目標を記入します。

### 学校の支援

### 家庭の支援

支援の目標の達成に向けて、本人・保護者と話し合い、それぞれの役割分担を記入します。

本人・保護者に十分説明し、記載内容について同意を得ます。これにより、「学校生活支援シート」を活用して関係機関と連携を図ることができるようになります。

成 年 月 日 <新規・更新 ( ) 回>  
 学校長  
 作成担当

保護者の了解を得る際に、記入してもらいます。

- ( ) 私は、以上の内容を確認しました。  
 ( ) 私は、以上の内容を確認し、学校が支援機関と連携して支援を行うことに同意します。

中・長期的な展望に立って、学校と家庭が支援の目標を共有するための書式を研究開発しました。

(裏)

支援機関の支援	
支援機関： 支援内容： 支援開始時期：	担当者： 連絡先：
支援機関： 支援内容： 支援開始時期：	担当者： 連絡先：
支援機関： 支援内容： 支援開始時期：	担当者： 連絡先：
支援機関： 支援内容： 支援開始時期：	担当者： 連絡先：
支援機関： 支援内容： 支援開始時期：	担当者： 連絡先：

生徒が利用している医療、福祉等の支援機関に関する基本情報を記入します。

支援会議の記録（予定も含む）		
日時	参加者	協議内容・引継事項等
日時	参加者	協議内容・引継事項等
日時	参加者	協議内容・引継事項等
日時	参加者	協議内容・引継事項等

上記の関係機関と支援会議を行った際には、その要点を記録しておきます。

これまでの支援の経過	
学校	家庭
これまで、学校や家庭が行ってきた主な支援の手だてを記入します。	
進学先・就労先等への引継ぎ事項	
進学先や就労先等へ引継ぐべき支援の手だてや関係する情報を記入します。	

以上の内容について、確認いたしました。

平成 年 月 日 学校等 ( )  
担当 ( )

# 「学校生活支援カード」(高等学校)

学校生活支援カード (個別指導計画) (表)

生徒	ふりがな		性別
	氏名		
担任	氏名		
在籍校			
◎長期目標 ○年間目標 ・重点目標			
学年会、生活指導部会、進路指導部会等で検討した内容に基づいて、学級担任が、長期目標、年間目標、重点目標をそれぞれ記入します。			
領域	指導目標	手だて・配慮事項	評価・訂正
学習指導	各教科の学習指導において共通する指導目標及び手だて・配慮事項を記入します。		
単位取得	当該生徒が単位取得していく上での配慮点について、記入します。		
生活指導	学級担任は、生活指導部、進路指導部と協議し、指導目標及び手だて・配慮事項を記入します。		
進路指導	当該期間における支援の評価を記入するとともに、次の期間に向けて課題点等引継ぎ事項を記入します。		
評価と引継ぎ事項	当該期間における支援の評価を記入するとともに、次の期間に向けて課題点等引継ぎ事項を記入します。		

作成日 平成 年 月 日 <新規・更新 ( ) 回>

学校長  
作成担当 \_\_\_\_\_

( ) 私は、以上の内容を確認しました。

( ) 私は、以上の内容を確認し、学校が支援機関と連携して支援を行うことに同意します。

平成 年 月 日 氏名

本人・保護者に十分説明し、記載内容について同意を得ます。

1年以内の短い期間の中で、生徒に合わせた具体的な支援を実施するための「個別指導計画」の書式を研究開発しました。

検討会議（学年会・生活指導会議等）の記録		
会議名	参加者	内容

当該生徒の事例検討を行った会議の名称、参加者、主な内容を記入します。

記録	
○月×日 時 対応 ○○	内容記載
○月×日 時 対応 ○○	内容記載

上記会議で検討等を行った内容を記入します。

# 学校生活支援シート、学校生活支援カードを活用した 3年間の支援の流れ(モデル)

入学前（中学校第3学年）から第1学年終了まで

月	支援の流れ
3月	<p><b>支援の必要な入学生についての情報収集</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入学手続き時、中学校で特別な支援を受けている生徒を把握する。 ※「相談カード」等を用意し、保護者から申し出ができるように工夫する。</li> <li>特別支援教育コーディネーターは、生徒本人、保護者と面談を行い、中学校との引継ぎについて了解を得る。</li> </ul> <p><b>中学校との引継ぎを実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育コーディネーターは、当該生徒の出身中学校に連絡し、「引継ぎの場」を設定して情報収集を行う。</li> </ul>
4月	<p><b>支援の必要な入学生の情報共有</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引継ぎで得た情報等をもとに、特別な支援が必要な生徒について、学年の教員間で共通理解を図る。</li> </ul> <p><b>学校生活支援シート、学校生活支援カードの作成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学級担任や特別支援教育コーディネーターは、本人及び保護者と面談を実施し、「学校生活支援シート」「学校生活支援カード」の作成・活用について理解と協力を得る。</li> <li>学級担任は、特別支援教育コーディネーター等の協力を得て、本人及び保護者と相談しながら「学校生活支援シート」「学校生活支援カード」を作成する。</li> </ul>
5月以降※	<p><b>学年会等での情報共有</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>関係する教員間で「学校生活支援シート」「学校生活支援カード」の内容について共通理解を図り、それぞれの教員が受け持ちの授業等において行う支援内容・方法を確認する。</li> </ul> <p><b>校内委員会の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「学校生活支援シート」「学校生活支援カード」に基づき、全校で情報を共有する。実施状況を確認するとともに実施による効果を評価する。</li> </ul> <p><b>年間の支援の成果についての評価、「学校生活支援シート」「学校生活支援カード」の更新</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学級担任は、特別支援教育コーディネーターや学年の教員等の協力を得て、年間の支援の成果について評価を実施する。</li> <li>評価の結果及び現在の生徒の姿に合わせて、「学校生活支援シート」「学校生活支援カード」を更新する</li> </ul>

※ 5月以降の支援内容は、第2学年以降も継続させていきます。



「学校生活支援シート」「学校生活支援カード」を有効に活用するためには、高校生活の3年間の中で、誰が、どのタイミングで、どのような支援を行うのかを明確にしておくことが大切であることから、そのモデルを作成しました。

## 第2学年終了まで

月	支援の流れ
4月	<p><b>前学年からの引継ぎを実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前年度の学級担任から、「学校生活支援シート」「学校生活支援カード」の確実な引継ぎを受ける。</li> <li>学年会等において、「学校生活支援シート」「学校生活支援カード」に基づいて教員間の共通理解を図る。</li> </ul>
5月以降	<p><b>進路先を考えていくための支援を実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「学校生活支援シート」に基づいて、本人や保護者から進路に関する希望等を十分に聞き取り、生徒の興味・関心、適性に応じた進路先決定に向け、キャリアガイダンスを充実させる。</li> </ul> <p><b>年間の支援の成果についての評価、「学校生活支援シート」「学校生活支援カード」の更新</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1学年時と同様に実施。</li> </ul>

## 第3学年から卒業後まで

月	支援の流れ
4月	<p><b>前学年からの引継ぎを実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第2学年時と同様に実施。</li> </ul>
5月	<p><b>学校生活支援シートに基づいて進路先を決めるための支援の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小論文作成や面接、口頭試問に向けた練習を丁寧に行う。</li> <li>大学入試センター試験における受験特別措置の申請を行う。</li> <li>ハローワークと連携した就労支援や、エントリーシートの作成支援を行う。</li> </ul>
3月	<p><b>高等学校での支援の結果を保護者に説明する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学級担任及び特別支援教育コーディネーターは、本人及び保護者と面談して高等学校における支援の成果を伝えるとともに、希望があれば進路先に必要な引継ぎを行うことを伝える。</li> </ul>
卒業後	<p><b>進路先との引継ぎを実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学級担任や特別支援教育コーディネーターは、本人及び保護者の希望に応じて進路先との引継ぎを実施する。</li> <li>その際、本人及び保護者の要望があれば、「学校生活支援シート」「学校生活支援カード」を進路先に引継ぐ。</li> </ul>

# 「学校生活支援シート」の作成例(高等学校)

## 事例 1

当該生徒は、中学校の通常の学級から入学してきました。入学の際、保護者から高校生活に不安があるとの申し出を受け、中学校との引継ぎを行いました。中学校では、他の生徒たちと一緒に行動することが苦手で、友人からからかわれたりすることもあったことから、教員が丁寧な見守りを行っていたことが分かりました。

入学後の当該生徒は、友人の気持ちを十分考えずに自己中心的な言動や行動をしたり、授業中に不規則な発言をしたりするなど、周囲を困惑させる状況を起こしました。

学校は、教員間で情報を共有して適時・適切な指導が行えるよう、「学校生活支援シート」及び「学校生活支援カード」を作成して、支援に当たりました。

## 面談の実施から中学校との引継ぎの実施まで

### 入学手続き時

入学手続き時に保護者から提出された「相談カード」(※)に、高校生活に不安がある旨の記載があった。

(※) 学校が定めている書式で、個別の支援の希望等を確認するための書類。

### 入学手続き終了後

「相談カード」を読んだ特別支援教育コーディネーターは、保護者から十分に話を聞く必要があると考え、校長の了解のもと、入学式前に保護者との個別面談を行うことにした。

#### 保護者からの話

- ・ 「自分の世界に閉じこもる」ようなところがあって、他の友人と一緒に行動することが苦手である。
- ・ 友人に合わせるのが難しく、小学校高学年頃から、周囲からからかわれているようである。

### 3月

特別支援教育コーディネーターは、保護者の要望を受け、当該生徒の出身中学校に連絡を取り、引継ぎの機会を調整し、実施した。

中学校の学級担任は異動予定だったが、3月中に実施したことにより引継ぎが円滑に実施できた。

## 支援の目標の整理

4月

特別支援教育コーディネーターは、中学校との引継ぎで得た次の情報を第1学年の教員間で共有し、各教科の授業や学級における当該生徒の様子を把握するように依頼した。

中学校の学級担任の話

(生徒の様子)

- ・ 一人でいることを好み、他の生徒と一緒に活動することが苦手である。
- ・ 興味のある理科や数学には熱心に取り組む。苦手な教科はほとんど勉強しておらず、成績が良くなかった。
- ・ 独り言が多く、周囲が困惑していた。

(中学校での配慮)

- ・ 周囲に合わせられないことを個性の一つとして捉え、周囲の生徒にそうした個性を認められるよう働きかけた。
- ・ 苦手な英語の宿題は一切やらないので、保護者に了解を得て、放課後に取り組ませたこともあった。
- ・ 独り言をやめさせることはできなかった。そのことでいじめに合わないよう、丁寧に見守るようにした。

特別支援教育コーディネーターは、各教員から当該生徒の授業中の様子などについて次のような情報を得た。

- ・ 授業中はノートを取らず、寝ていることが多い。
- ・ 友人はつくらず、休み時間は常にスマートフォンで遊んでいる。
- ・ 実験の授業は大好きで、グループの生徒のことは全く構わず、一人で実験を進めている。
- ・ 独り言が多く、同級生に真似をされ、からかいの対象になりつつある。
- ・ 相手に断られているにも関わらず、特定の女子生徒に何度も話しかける様子が見られる。

学級担任と特別支援教育コーディネーターは保護者と相談し、次のことを支援の目標として共通理解した。

- 1 「その場に応じた適切な行動が取れるようになること」
- 2 「専門家と相談する機会を設け、自らが自分のことを相談できるようになること」
- 3 「規則正しい生活を送れるようになること」

この共通理解に基づいて、保護者とともに、支援のための「学校生活支援シート」を作成した。

# 当該生徒の「学校生活支援シート」(作成当初)

学校生活支援シート (個別の教育支援計画) (表)

生徒	ふりがな	〇〇 〇〇	性別
	氏名	〇〇 〇〇	男
担任	氏名	〇〇 〇〇	
在籍校	都立〇〇高等学校		1年 〇組

## 将来についての希望や願い

生徒	理系の大学に進学してコンピュータについて学びたい。 プログラマーや運輸関係の仕事に就きたい。
保護者	同級生とトラブルを起こさずに学校に通えるようになってもらいたい。 技術者のような職が向いていると考える。

## 現在の生徒の様子

- ・ 他の生徒がどう感じるかを想像することが苦手で、思いつくままに行動を起こしてしまう。協力して活動しなければならない場面でもそのことへの理解が難しい。
- ・ 理数系以外の教科について学習意欲をもつことが難しく、課題の提出ができていない状態であり、卒業が危ぶまれている。

## 支援の目標

- ・ 他者と協力しなければならない場面や、他者を困惑させる行動を取りそうな場面では、「〇〇の時は□□する」といったように、具体的な場面に即して望ましい行動を伝える。
- ・ 単位取得に向けて、本人が努力できる環境の整備を行う。

学校の支援	家庭の支援
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同級生によるからかいを受けないように丁寧に見守っていく。</li> <li>・ 専門家による相談を受けられる機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夜遅くまでインターネットを見たりゲームをしているので、規則正しい生活を送れるようにする。</li> </ul>

作成日 平成〇〇年〇〇月〇〇日 <新規・更新 ( ) 回>

学校長 〇〇 〇〇

作成担当 〇〇 〇〇

( ) 私は、以上の内容を確認しました。

( ○ ) 私は、以上の内容を確認し、学校が支援機関と連携して支援を行うことに同意します。

# 「学校生活支援シート」に基づき「学校生活支援カード」の作成へ

5月

学級担任と特別支援教育コーディネーターは、学年会の場で当該生徒の「学校生活支援シート」をもとに、教科担当教員との情報共有を図った。

その上で、教科担当教員が、当該生徒に対して、受け持ちの授業でどのような支援ができるかについて意見交換を行い、「学校生活支援カード」を作成して、具体的な支援を実施することとした。

(意見交換の内容)

- ・ 授業集中できないと独り言が始まる。簡潔な板書を行い、ノートを取らせるようにしてはどうか。
- ・ 実験の授業は、当該生徒が一人で進めてしまわないように、事前に役割分担を明確にしてはどうか。
- ・ 放課後、学習支援室(※)に定期的に立ち寄り、授業レポートや宿題を行ってから帰るよう働きかけてみてはどうか。
- ・ 異性とのかかわり方は簡単に指導できることではないが、少なくとも相手に断られた時には、それ以上話しかけないよう、マナーを教えたほうがよいのではないか。
- ・ 友人を作らない、休み時間にスマートフォンで遊んでいるという過ごし方は個人の自由である。個人の自由を尊重するような学級経営を行うべきである。

(※) 放課後、教員や卒業生の大学生が個別に学習指導を行う教室。

当該生徒の「学校生活支援カード」(抜粋)

◎長期目標 ○年間目標 ・重点目標

◎より配慮の少ない環境の中で安定した学校生活を送れるようになる。

○教師の助言を受けて、友人との関わり方を学ぶ。

・個別面談を重ねて、教師との間に信頼関係を築けるようにする

領域	指導目標	手だて・配慮事項	評価・訂正
学習指導	興味の高い理数系の授業では、説明を聞いて、内容を自分なりにノートにまとめられるようになる。	簡潔な板書と、要点を絞った説明を行う。授業担当者はノートを取っているか必ず確認する。	学級担任が記入。  学級担任が生活指導部と相談して記入
単位取得	提出日までに授業のレポートを提出する。	本人と約束して、学習支援室で勉強する日を設定する。	
生活指導	女子生徒と話したい時には、話をしたいか聞き、断られたら別の機会にする。	断られた時には話しかけないことがマナーであることを繰り返し伝えていく。	

## 計画に基づいた支援の実施と評価

2月

学級担任と特別支援教育コーディネーターは、学年の教員等の協力を得て、年間の支援の成果について評価を実施した。

### 学習面の評価

領域	指導目標	手だて・配慮事項	評価・訂正
学習指導	興味の高い理数系の授業では、話を聞いて、内容を自分なりにノートにまとめられるようになる。	簡潔な板書と、要点を絞った説明を行う。 複雑な内容はプリントを配布する。	ノートを取る要領が徐々によくなり、授業中の独り言も減った。
単位取得	提出日までに授業のレポートを提出する。	本人と約束して、学習支援室で勉強する日を設定する。	決まった曜日に自分から来室して授業のレポートを作成していた。

(現在の様子から)

- ・ ノートを効率的に取れるような指導したことにより、授業に集中できる時間が増え、独り言を話す機会が激減した。
- ・ 家庭で夜遅くまでゲーム等をしているようで、授業中に寝てしまう姿がしばしば見られるが、回数は減ってきている。
- ・ 理科の実験の授業では、指示された手順を分担にしたがって取り組むことができたので、他の生徒と協力して実験を進めることができた。
- ・ やらされているという態度は前面に出ているものの、学習支援室に自分から来室し、授業レポートや宿題に取り組むことができている。

### 生活面の評価

領域	指導目標	手だて・配慮事項	評価・訂正
生活指導	女子生徒と話をしたい時には、話をしているか聞き、断られたら別の機会にする。	断られた時には話しかけないことが大人になるためのマナーであることを繰り返し伝えていく。	女性教員であれば、指導を受入れられる場面も出てきた。

(現在の様子から)

- ・ 相手の気持ちを汲み取ることが苦手な当該生徒に合わせて、「断られたら話しかけない」というルールを「マナー」として指導した。
- ・ 当該生徒は「マナー」には従わなければならないという考えをもっており、指導効果が徐々に見られてきた。
- ・ 当該生徒は相手から婉曲的に断られても、断られたと理解できず、何度も何度も話しかけてしまう。婉曲的な断りの表現に対する理解力を高めていけるような方策を考えていく必要がある。



## 心理の専門家との連携

3月～

### 学校の支援

- ・ 同級生によるからかいを受けないように丁寧に見守っていく。
- 専門家による相談を受けられる機会を設ける。

「学校生活支援シート」に記した「専門家による相談の機会」を設定することについて、当該生徒の一年間の変化を踏まえ、臨床発達心理士やスクールカウンセラーとの連携を図った。

特別支援教育コーディネーターは、当該生徒が臨床発達心理士と面談し、「最近の自分のこと」について相談できる機会を設定した。

### 臨床発達心理士の助言

[本人に対して]

- ・ 自分でストレスがたまったことを感じられるようになることと、相談する相手を身近につくると良い。

[学校に対して]

- ・ 当該生徒は集団生活を送ること自体にストレスを感じてしまうことを理解してあげられると良い。

学級担任はスクールカウンセラーと連携し、当該生徒の話の中から学習上や生活上に課題が生じていないか把握を行った。

## 支援の成果

### これまでの支援の経過

**学校** 学習環境を整えたり、本人にできる活動に取り組みせたりすることにより、他の生徒が困惑するような独り言や自己中心的な活動が見られなくなった。学級集団の中で自らの気持ちを安定させて過ごすことができている。

**家庭** 夜更かしが多く規則正しい生活を送るに至っていないが、遅刻の回数が減ってきた。

(次年度に向けて)

- ・ 相手の気持ちをくみ取って行動することはまだ難しいので、生活の中の様々な場面での望ましい行動について、機会を捉えて説明していく。
- ・ 卒業後の進路にあまり関心がない。卒業後の生活に対する本人の興味・関心を高めるため、進路情報を適切に提供していく。

次年度への引継ぎを行う

## 事例 2

第3学年在学。第1学年時より支援を開始、大学進学が決定。

当該生徒は、中学校では特別な支援を受けてきませんでした。高校入学後、他者とのコミュニケーションにおいてトラブルが頻発したことから、学級担任は当該生徒に対する個別の支援が必要と考えました。

担任及び特別支援教育コーディネーターは、保護者に当該生徒に対する支援の必要性を説明し、「学校生活支援シート」及び「学校生活支援カード」の作成について了解を得ました。

学級担任は、「学校生活支援シート」及び「学校生活支援カード」に基づいて、特別支援教育コーディネーターや養護教諭、スクールカウンセラーと協力して支援に当たりました。

特別支援教育コーディネーターは、卒業後に大学への進学が決まった当該生徒及び保護者の希望を受けて大学との引継ぎを実施し、作成した「学校生活支援シート」及び「学校生活支援カード」を引継いで、高等学校における支援の経過等を情報提供しました。

## 支援実施までの経緯

### 4月（第1学年）

入学後、学級担任は、当該生徒の様子について、各教科の担当者らから次のような情報を得た。

- ・ 興味が限局しており、政治・経済に関する知識が非常に豊富である。
- ・ 相手を選ばず論戦を挑み、乱暴な口調で大きな声を出しながら相手を論破する。
- ・ 自分と気が合う相手とは打ち解けて話をするが、それ以外の相手には常に挑発的な口調で話すため嫌がられている。
- ・ 級友がミスをした時には、そのことをはっきり口に出して相手を責める。
- ・ 自分の気に入らない活動になると、寝てしまったり、教室を出ていってしまったりする。
- ・ 汚れた服で登校しても気にせず過ごしている。
- ・ 級友とのトラブルが頻発しているが、本人は全く意に介していない様子である。

学級担任は、当該生徒の様子について特別支援教育コーディネーターと相談した結果、当該生徒に対して支援が必要であると考えた。

学級担任は、校長の了解の下、特別支援教育コーディネーターの協力を得ながら、当該生徒の保護者と面談し、「学校生活支援シート」及び「学校生活支援カード」の作成について了解を得ることにした。



## 保護者との面談の実施

5月（第1学年）

学級担任と特別支援教育コーディネーターは、当該生徒の保護者と面談を行い、当該生徒の学校での様子を伝えた上で、「学校生活支援シート」及び「学校生活支援カード」を作成して支援に当たる必要があることを説明した。

当該生徒の保護者は、「学校生活支援シート」及び「学校生活支援カード」の作成に同意した。学級担任と、特別支援教育コーディネーターは、保護者の求めに応じて、家庭に関連する記載事項を相談し、決定した。

### 将来についての希望や願い

生徒	<ul style="list-style-type: none"><li>大学に進学して法学を学びたい。</li><li>趣味のパソコン操作を習熟したい。</li></ul>
保護者	<ul style="list-style-type: none"><li>無事に卒業して、大学に進学してもらいたい。</li><li>家で乱暴な言葉を使わないようになってほしい。</li></ul>

### 家庭の支援

- 服装や頭髪などの身だしなみに気を付けさせる。
- 保護者に対して丁寧な言葉遣いをさせる。

学級担任は、次ページの「学校生活支援シート」を作成し、内容について保護者の了解を得た。

## 計画に基づいた支援の実施

6月～（第1学年） ※以降、卒業時まで支援を継続

学級担任は、「学校生活支援シート」及び「学校生活支援カード」に基づき、特別支援教育コーディネーターや養護教諭、スクールカウンセラーと協力しながら支援を進めた。

（学級担任による指導の概要）

- 当該生徒の不満や苦情に対して徹底して聞き役になった。
- 当該生徒がストレスを発散して落ち着いたところで、徐々に指導を行うことにした。

学級担任との良好な関係が構築され、徐々に助言を受け入れられるようになった。その結果、級友に対する乱暴な発言もわずかではあるが減少した。

# 当該生徒の「学校生活支援シート」(第1学年時)

学校生活支援シート (個別の教育支援計画) (表)

生徒	ふりがな	〇〇 〇〇	性別
	氏名	〇〇 〇〇	
担任	氏名	〇〇 〇〇	
在籍校	都立〇〇高等学校		1年 〇組

## 将来についての希望や願い

生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学に進学して法学を学びたい。</li> <li>趣味のパソコン操作を習熟したい。</li> </ul>
保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>無事に卒業して、大学に進学してもらいたい。</li> <li>家で乱暴な言葉を使わないようになってほしい。</li> </ul>

## 現在の生徒の様子

<ul style="list-style-type: none"> <li>興味のある政治・経済の話題で相手を選ばず論戦を挑み、乱暴な口調で大きな声を出しながら相手を論破する。</li> <li>周囲から自分がどのように見られているかに関心がなく、自分の興味の向くことだけを行いたがる。</li> </ul>
---

## 支援の目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>他者に対して威圧的な言動をとる頻度を減らせるようになる。</li> <li>生活上の不満や苦情は学級担任に言うことにし、級友には言わないようになる。</li> <li>自分の気持ちを一方的に言うことではコミュニケーションにならないことを理解できるようになる。</li> </ul>
---

学校の支援	家庭の支援
<ul style="list-style-type: none"> <li>ストレスを発散できる場を設け、十分に発散させる。</li> <li>その上で、相手の心情を考え、言葉を選び、威圧的な話し方をしないよう、段階を踏んで練習できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>服装や髪型などの身だしなみに気を付けさせる。</li> <li>保護者に対して丁寧な言葉遣いをさせる。</li> </ul>

作成日 平成 年 月 日 <新規・更新 ( ) 回>

学校長

作成担当

- ( ) 私は、以上の内容を確認しました。
- ( ○ ) 私は、以上の内容を確認し、学校が支援機関と連携して支援を行うことに同意します。

## 3年間の支援のまとめと大学への引継ぎの実施

### 卒業時

学級担任と特別支援教育コーディネーターは、当該生徒及び保護者と面談し、3年間の支援の結果（成長の様子と卒業後の課題等）を伝えた。

当該生徒は校内での暴言は減ってきたものの、威圧的な傾向や自己中心的な行動はまだ残っていた。

学級担任と特別支援教育コーディネーターは、当該生徒が人間関係のトラブルにより大学を退学することを防ぐため、「学校生活支援シート」及び「学校生活支援カード」を活用して大学に支援の引継ぎを行うことを提案し、当該生徒と保護者の了解を得た。

### 当該生徒の「学校生活支援シート（裏面）」（抜粋）

#### これまでの支援の経過

<b>学校</b> 本人の生活上の不満を受け止めながら、級友に対する適切な接し方を伝え、威圧的な言動を徐々に自制できるようになりつつある。	<b>家庭</b> 身だしなみに気を付けるよう指導し、汚れた服は着なくなってきた。
---	---

#### 進学先・就労先等への引継ぎ事項

- ・ ストレスをためこみやすく、他者に対して威圧的な言動を取ってしまうので、カウンセリング等の場面で発散させることが必要と考えられる。
- ・ 興味のある科目ばかり履修し、必要な単位が足りずに卒業できなくなることが想定される。単位取得に関する支援が必要と考えられる。
- ・ 興味が共通する相手となら人間関係を保つことができるので、本人に合ったサークル活動に所属できることが望ましい。



当該生徒及び保護者の希望を受け、特別支援教育コーディネーターは大学と連絡を取り、「学校生活支援シート」及び「学校生活支援カード」を渡して支援の引継ぎを実施した。

#### （大学側の支援計画の概要）

- ・ 当該生徒に定期的にカウンセリング実施して、生活上のストレスを発散させるとともに、深刻なトラブルに見舞われていないかを把握する。
- ・ 当該生徒が好きな科目ばかりを履修して、必要な単位数が不足することがないように、履修相談を実施する。
- ・ 当該生徒が興味・関心をもちそうな学内のサークルを調べ、当該生徒に紹介する。必要に応じて、当該生徒を学内サークルに紹介する。

# 高等学校で大切にしたい「4つの取組」

= 本事業の研究成果をもとに「4つの取組」を提案します =

## 取組 1

### 中学校との引継ぎの実施

中学校在籍時から特別な支援を受けてきた生徒について、出身中学校との「引継ぎ会」を設定するなどして情報収集に当たり、高等学校でできる支援を継続させていきます。

- ・ 「相談カード」を用いるなどして特別な支援に関する相談や要望、中学校で受けていた支援の内容等を申し出ることができるようにします。
- ・ 特別支援教育コーディネーターは、申し出のあった保護者や生徒本人と面談を行い、中学校との引継ぎについて了解を得ます。
- ・ 特別支援教育コーディネーターは、生徒の出身中学校に連絡して、3月中に引継ぎを実施するなどして、情報を収集します。
- ・ 保護者の了解を得て、中学校が作成した「個別の教育支援計画」や「個別指導計画」の引継ぎを受けます。

## 取組 2

### 「学校生活支援シート」 「学校生活支援カード」の作成

本人及び保護者の希望を聞き取り、中学校との引継ぎで得た情報等に基づいて、「学校生活支援シート」及び「学校生活支援カード」を作成します。

- ・ 学級担任は、特別支援教育コーディネーター等の協力を得て、本人及び保護者と相談しながら「学校生活支援シート」及び「学校生活支援カード」を作成します。
- ・ 「学校生活支援カード」の作成において、学級担任は、学年の教員や生活指導部、進路指導部と相談しながら、学習指導や生活指導、進路指導における具体的な指導目標を設定します。
- ・ 学級担任は、作成した「学校生活支援シート」及び「学校生活支援カード」の内容について、保護者の確認を受け、「個別の教育支援計画」及び「個別指導計画」として活用できるようにします。

中学校や進路先との「つながり」を大切にし、特別な支援を必要とする生徒やその保護者が「安心」して学校生活を送ることができるよう、「4つの取組」を充実させていきましょう。

### 取組 3

#### 個に応じた支援の実施

作成した「学校生活支援シート」及び「学校生活支援カード」は校内で共有し、それぞれの教員が担当する授業等において、個に応じた支援を実施するとともに、その成果や課題をフィードバックして内容の改善を図ります。

- ・ 「学校生活支援シート」及び「学校生活支援カード」の内容を共有する機会を設けます。
- ・ 共有した内容に基づいて、関係する教員が、対象となる生徒に応じた具体的な支援を共通して実施します。
- ・ 学級担任は、年度末に保護者を交えて評価を行い、現在の生徒の姿に合わせて、内容を更新します。新年度には新しい学級担任に確実な引継ぎを行います。
- ・ 当該生徒や保護者から進路に関する希望等を十分に聞き取り、生徒の興味・関心、適性に応じた進路先決定に向け、キャリアガイダンスを充実させます。

### 取組 4

#### 進路先との引継ぎの実施

本人及び保護者の希望に応じて、進路先との引継ぎを実施します。

本人及び保護者の要望があれば、「学校生活支援シート」及び「学校生活支援カード」を進路先に引継ぎます。

- ・ 学級担任及び特別支援教育コーディネーターは、本人や保護者と面談し、希望があれば進路先に必要な引継ぎを行うことができることを伝えて意向を確認します。
- ・ 学級担任や特別支援教育コーディネーターは、当該生徒や保護者の希望を受けて、進路先に連絡して引継ぎを実施し、高等学校が作成した「学校生活支援シート」及び「学校生活支援カード」を渡して、支援の経過等を説明します。



## これからの個別の教育支援計画

～「つながり」と「安心」を支える新しい個別の教育支援計画～

東京都教育委員会印刷登録

25年度 第197号

発行日	平成26年3月31日
発行	東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課
所在地	〒163-8001 東京都新宿区西新宿2丁目8番地1号

